

# 派遣留学生帰国報告書

\* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015/9/13		
所属学部	千葉大学大学院工学研究科		
所属学科・専攻	デザイン科学専攻		

## 1. 留学先について

留学先大学名	The Glasgow School of Art/ Köln International School of Design			
留学先所属学部等	Product Design/ Intergrated design			
留学期間	出発日 2014/9/4	入学日 2014/9/22	修了日 2015/7/21	帰国日 2015/8/5
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート		<input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート	<input type="checkbox"/> その他( )
	通学時間	徒歩20分(GSA)/バス5分(KISD)		<input type="checkbox"/> On campus
	通学方法	徒歩・バス		
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室	<input type="checkbox"/> ( ) 人部屋	<input checked="" type="checkbox"/> その他( )
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室 <input checked="" type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他( )		
食事	自炊 60 %	学食 30 %	外食 10 %	その他 % ( ) * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	AIU		
	大学指定の保険(名称)			<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	成田/グラスゴー ⇄ ドバイ(飛行機)/ロンドン(バス) ⇄ グラスゴー(バス)/ケルン(飛行機)			

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	3000000	円	* おおよそでかまいません。				
出処							
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円	
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	1100000	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/> JASSO	1300000	円	<input type="checkbox"/> その他名称( )	円		
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他( )	円			

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="checkbox"/> 現金	円	<input type="checkbox"/> その他( )	円
留学中	<input type="checkbox"/> 海外送金	<input type="checkbox"/> キャッシング	<input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 新生銀行・クレジットカード )	

## 2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	なし
住居にかかった費用	クレジットカード(グラスゴー)、振込(ドイツ)
その他	グラスゴーでの支払いはほとんどクレジットカードを使用。ドイツではクレジットカードがあまり使えない。

## 2-3. 内訳

\* 外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			およそ150,000	円
海外旅行保険				円
OSSMA				円
査証・在留許可証		100 €	13,000	円
住居		1800£/2500€	680,000	円
食費			220,000	円
通学に要する交通費				円
教科書、教材費				円
その他大学に支払った経費				円
光熱費				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名 *全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定 申請の有無
1 BrandX			<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 Open Source Design			<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Design Theory			<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Forum for Critical Inquiry			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
5 Self-Moving Materials and Artifacts			<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 Designing Interactions / Experiences: Processes and Methods			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
7 Wearable Circuits-Natural Gestures			<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8 International AG			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
9 Mentoring Program			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
10			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
11			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
12			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
13			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
14			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
15			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
16			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
17			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
18			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
19			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
20			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

\*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

(GSA) GSAでは、プロダクトデザインに留学生として編入すると自分の学年に関係なく学部3年生の授業に参加することになります。GSAのプロダクトデザインコースでは、全員が同じプロジェクトに参加するプロジェクトベースのカリキュラムになっているので、ほとんど自分で授業を選ぶことはありません。全コースの3年生を対象に行なわれるFoCIの授業のみ、好きなtopicからクラスを選ぶことが可能です。

(KISD) 留学生は20-30ectsを目安に授業を選択します。ドイツ語が話せない留学生は主に英語の授業(全体の授業の半分程度が英語で開講されます)に参加することが多いです。留学生には、Medium Term Projectを1つ(または1つのLong Term Project)とshort term projectを2つ、scientific/technical seminarを1つまたは2つ、courseを1つ、working groupを1つ、そしてmentoring programを受講することを勧められます。がしかし、自由度の高い学校なので、実際には好きな授業をいくつでも受講することが可能です。レギュラー学生はネット上で授業の登録を行ない、通常上の学年が優先的に授業をとることができるのですが、留学生は一番のプライオリティを持っているためだいたい授業を受けられます。

### 3-2. 授業内容、方法に関して

(GSA) 授業は基本的に留学生を含む20人程度のクラス全員で行なわれます。BrandXでブランディングを行ないました。グループワークでブランドを構築した後、ブランドに沿った個人プロダクトの提案をしました。プロジェクト後、街のギャラリーで2日間のエキシビションを開催しました。Open Source DesignではクライアントであるFuture Cities Glsgowと協力し、オープンソースを利用した未来の生活を考えました。このプロジェクトは最初から最後までグループで遂行され、プロジェクト終了時にはFuture Cities Glasgowのオフィスでクライアントに向けた最終プレゼンが行なわれました。Design Theoryの授業では、グループでアイディエーションをしたあと、個人でプロジェクトを進めていきました。Reasearch through Designの手法を使い、プロトタイプを繰り返しartifactsをつくりあげていきました。Forum for Critical Inquiryは週に1度の講義をうけ、最後にトピックに関する2000語のエッセイの提出をしました。

(KISD)授業・期間・担当教授によって授業のスタイルが大きく異なるのが特徴的です。Self-Moving Materials and Artifactsは、1セメスターまるまる使うロングタームプロジェクトでした。原則的に、学部生と修士学生がチームを組みました。週1度のチュートリアルで教授にアドバイスをもらうために、空き時間でグループごとにプロジェクトを進めていき、各チームが目にしたSelf-Moving Materialについてプロトタイプを繰り返しながら理解を深めていきました。最終的に一週間の展示を行ないました。Desining Interactions/ Experience:Processes and Methodsでは、週一のインタラクションやインターフェース、エスノグラフィ調査を含むユーザーリサーチに関する講義を受けました。同時に、先生が与える課題をこなすことでユーザーリサーチに関する技術を実践的に学びました。Wearable Circuits-Natural Gesturesは一週間のショートタームプロジェクトでした。インターフェースやテクノロジーと人間の関係性などについての講義を受けながら、参加生徒でディスカッションをしたり豆電球と電池だけの簡単な回路を利用しプロトタイプの作成を行ないました。Working Groupの1つであるInternational AGでは、学校で行なうイベントを企画しました。アジアナイトやアメリカナイトなどを企画し、各国の料理を振る舞ったり、部屋をデコレーションしたりしました。

### 3-3. 語学力について

留学してすぐの頃、GSAで行なわれたアイスブレイキングのプロジェクトでは、スコットランドの訛りのためもあり、メンバーの言っていることが分からず焦りを感じました。少しずつスコットランドの訛りや他国からの留学生の外国語訛りの英語にも慣れていき、最終的には不便がない程度には英語力がついたと思います。話せるようになっていき、自信もついたと感じます。ドイツ語に関しては、授業も英語で受けていたためほとんど学ぶ機会がなく、お店での注文や初歩の簡単な質問程度しか語学力をつけることが出来ませんでした。

### 3-4. 図書館など学内施設について

(GSA)美術大学ということもあり、図書館はあまり大きくはありませんが、デザインからアート、建築、ファッション、写真などに関する蔵書が豊富に揃えてありました。実際にエッセイを書く際にいくつかの本を借りましたが、学生証を持っているだけで簡単に本を借りることが出来ました。

(KISD) KISDの校舎には図書館はありませんが、歩いて数分の場所にあるKISDの大元のケルン応用科学大学の図書館があります。ここの図書館はあまり大きくありませんが、学生証を提示すれば、ケルン大学の図書館でも本を借りることが出来るそうです。蔵書がドイツ語のものがほとんどですが、英語のものもあります。学内施設としてEquipment serviceが充実しており、高価なカメラやビデオカメラ、照明などを無料で簡単に借りることが出来ます。

### 3-5. その他

#### 4. 生活面 \*気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

##### 4-1. 住居について

(GSA) Victoria Hallというstudent accommodationに住んでいました。5・6棟のビルからなる大きな学生寮なのですが、グラスゴー中の様々な学校の学生が滞在しており、その中の1つをGSAが借りていました。私のフラットは5人用で、個人個人がシャワー・トイレ付きの個室を所有し、キッチン・リビングを5人で共有していました。キッチンリビングは改装されたばかりらしく、とても綺麗でした。入居時に掃除のローテーション等をフラットメイトと話し合い、快適にすごすことができました。フラットメイトとは仲良く、たまに一緒にご飯をたべたり、ご飯を作ってもらったりしました。

(KISD)ドイツではインターネット上でシェアフラットの相手や空いた部屋に募集をかけることが一般的で、わたしもインターネットでシェアフラットを探しました。しかし、グラスゴーという遠隔地でのやり取りとドイツ語の言語の壁、短期間の滞在という理由でフラットメイト探しは難航しました。50通程度メールを送ったと思います。しかし、なんとかスカイプで簡単な面接をし、たまたまKISDの学生と一緒に住むことがきました。ドイツのシェアフラットにはドイツ独自の独特のルールがありドイツの普通に戸惑うこともありましたが、暮らしていくことが出来ました。

##### 4-2. 食生活について

(グラスゴー)ポンド高だったことありますが、食品を含む生活用品が高いです。普通にスーパーで買い物しても、思ったよりも食費がかさんでしまったりしました。家では主に自炊、お昼はたまにお弁当を持っていったり学食で食べたりしました。学食は1.9ポンドで一番安く味も普通のフライドポテトをよく食べていました。外食はかなり高く、お金をだしてもそこまで美味しいものがたべられませんでした。どこのレストランでも食事を頼むと、塩こしょうケチャップマスタードマヨネーズなどの調味料セットが出てきて自分で味を付けることができます。

(ケルン)ヨーロッパの他国と比べるとあまり食文化が目立たないドイツですが、イギリスから渡ったためか食事がおいしく感じました。特にスーパーで買う野菜やくだものは新鮮な上安価で生活費をぐっと抑えることができました。こちらでも主に自炊、お昼は3ユーロ程度で食べれる学食に通っていました。外食にしてもアジア系の店なら10ユーロ以下程度で一食たべることができるのでよく友達と夕ご飯を食べに出かけたりしてました。

##### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

基本的に日本からSIMロックを解除した自分のスマートフォンを持っていき、各国でSIMカードを契約・購入しました。

(グラスゴー)イギリスのSIMカードはプリペイド式で契約も分かりやすく簡単でした。わたしは、O2の子会社であるgiffgaffをつけていました。giffgaffはO2の回線を使うので通信品質も高く、通話料がとても安い、プランがシンプルで分かりやすいのでオススメです。

(ケルン)ドイツではSIMカードは月契約した上にプリペイド式で、システムが少し分かりづらかったです。また、街により通信が良い会社悪い会社がちがうみたいで、わたしが使用していたボーダフォンはケルン以外の街に出かけた際に使いづらかったのを覚えています。どこの通信会社でも、基本的に料金は高めです。

## 4-4. 服装について

(グラスゴー)北に位置しているグラスゴーですが、冬でもあまり雪は降りません。(雪が降る頻度としては東京や千葉と同じくらいです。)しかし、秋～冬にかけては風が非常に強く、雨がよく降ります。グラスゴーの天気は変わりやすく、1日のなかでも、晴れたり雨が降ったりと何度も変化します。そのため、風を防げるような厚手なコートやマフラーが必須でした。

(ケルン)ケルンの春先～夏はとても天気もよく過ごしやすいです。日本と比較すると、北海道と同じくらいの気候だと思います。6月・7月でもちょうどよい夏の気候を楽しむことができます。そのため、冷房がほとんど存在しないので、夏になると多くの人がタンクトップやキャミソールなど涼しい格好で過ごしています。

## 4-5. 健康管理について

なるべく風邪を引かないようにバランスの良い食事を心がけていました。グラスゴーで何度か体調を崩した時は、悪くならないうちに睡眠を多めに取ったりしていました。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用 \*利用実績等をご記入ください

なし

## 4-7. 課外活動について

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

二つの学校どちらもほとんど学校の生徒や留学生と交流していたため、学外コミュニティとの関わりはほとんど持ちませんでした。ドイツに関しては、タンデムという語学を教え合うシステムがあり、そこでドイツ人にドイツ語を教えてもらいながら交流を図る人たちもいました。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

常備薬(アトピー肌のため塗り薬を多めに)、かぜ薬など(風邪薬・鎮痛剤・吐き止め等)、筆記用具全般、だしの素、Simロックを解除したスマートフォン、ipad mini(旅行などで本などを読む)、肌着(ヒートテックとか)、ポータブルHDD(デザインプロジェクトでデータが多くなりすぎたため)

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

服(向こうでよく買ったため)

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

(グラスゴー)グラスゴーの人たちは、いわゆる“イメージのイギリス人”よりも気さくで、パブの前で友達を1人で待っているときなど、おじいちゃん2人組が話しかけてくれたりします。昼間からパブに人がいる。車が左側通行で日本と一緒に。本当にみんなコーヒーよりも紅茶を好み、ティーバッグですがよく飲みます。

(ケルン)ドイツ人は自分が思っていることを正直に包み隠さず伝えることが礼儀正しいと思っています。仲良くなるのが難しいですが、その分仲良くなると長く友情関係が続くようです。ケルンは他のドイツの都市と比べるとオープンであると言われている土地で、LGBTの人たちが多いです。ヨーロッパ他国と比べると、シェアフラットをする際にドイツ独特のルールがたくさんあります。

## 5. 報告

### 5-2. 留学先大学について(150~200文字)

The Glasgow School of Artは伝統がある美術大学であり、同じプロダクトデザインコースでも自分の所属する千葉大の雰囲気とはかなり印象の違う環境でした。プロダクトデザインコースには各学年20人程度が所属しており、学年全員で少人数授業が行なわれていました。授業はプロジェクトベースで行なわれ、3~5週間の短期間で1つのプロジェクトだけに集中することができます。

Köln International School of Designは、ケルン応用科学大学の下にあるデザインのこじんまりとした学校です。各学年60人程度しかおらず、多くの人が見知りでした。また、学生のワーキンググループが運営するGuteStubeというカフェがコミュニティハブになっていると感じました。授業は数多くのセミナーやプロジェクトから自分の興味がある分野のものを受講することが出来、その半数近くが英語で開講されます。

### 5-3. 留学中の様子(450~500文字)

始めのうちはヨーロッパ言語訛りの英語やスコットランド訛りネイティブスピーカーが話していることを全部理解することが出来ず、悔しい気持ちと恥ずかしい気持ちでいっぱいでした。それでも友人達の言っていることを少しでも理解したくてついていくのに必死でした。そのかいもあり、途中から英語が少しずつ分かるようになってきて、それからは生活が一気に楽しくなりました。また、スコットランド・ドイツ共にいろいろな国出身のいろいろな価値観を持つ人たちに出会い、自分の国や自分のことについて深く考える時間が増えました。外から見てみる国と実際に住んでから分かる国は思っていたよりも違うことがあり自分の中でも物事を受け入れる範囲がひろがったと感じています。デザインに関しても、専攻分野や文化のバックグラウンドによってみなバラバラな意見を持っていて、グループワークではそれらをすりあわせるのが難しくもあり楽しい一面でもありました。とくに意見を言う際には、意見をはっきりストレートにいうことがいとされていたり、とにかく自分の思ったことを全部話したりと国の文化ごとに異なる背景がありますが、そこも面白いと感じました。

### 5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

デザインの学生にとって、新しい価値観を知り経験を得て、新しい視点で物事を見ることが出来るようになるということはとても大事なことです。日本の当たり前が海外では当たり前ではなかったり、自分の中での”常識”が覆ることもたくさんあります。日常会話のニュアンスだったり、グループワークの進め方など、日本よりも個人差が大きいヨーロッパで、たくさんの人と出会ったことは私のこれからの人生の糧になると確信しています。これから留学を希望している人たちへのアドバイスとして、自分が体験したことないことはこわいと感じることもありますが、恐れなくて全部やってみてください。きっと新しい世界と出会えると思います。自分の想定外を超えていくのは意外とドキドキして楽しいです。



## 5-5. 留学を終えて \* 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

11ヶ月、二カ国に及ぶ留学生活でしたが帰国してみると実は夢だったのではないかと思うくらいあっという間の出来事でした。自分の想定外のことがたくさん起きました。半年ずつ2カ国に住み、2つ学校に通いました。半年というのは短くもなく長くもなく、その場所で生活したという実感を得るのに十分な時間です。慣れてきたと感じた頃に引っ越しをし、友人達とお別れをするのは寂しい思いをしましたが、2つの土地に住む経験は刺激的でした。グラスゴーとケルンに実際に住んでみて、一番良かったと思える点は、なにが日本と違うのかということだけではなく、これがヨーロッパスタンダードであるのか、またはこの国独自の何かということとを比べることが出来た点です。スコットランドとドイツは日本との距離を比べると離れているというほど遠くはありません。二つの国間にもたくさんの共通点があり、そしてたくさんの相違点があります。また遠く離れた日本でも意外な共通点などをたまに見つけることができ楽しかったです。また、留学をして、デザイナーになりたいという思いがさらに強くなりました。留学前は、卒業後に自分が何になりたいかが少し曖昧でした。しかし留学をし、授業を受け、様々な国出身の友人達と会い、いろいろな話しをして、わたしはやっぱりデザイナーになりたいと強く思うことが出来ました。また自分の人生において国はひとつの選択でしかなくて、これから人生のどこかで日本でない国で働いてみたいと考えています。そのときもおそらく今回の留学のように、全てが新しい環境・新しい価値観となり自分にとって大きなチャレンジになると思いますが、同時にとてもワクワクしています。加えて、英語がもう少し上達したら、もう言語なにか習得したいと考えています。留学中とくにドイツに滞在中、ヨーロッパの学生は2カ国以上しゃべれるのが基本でした。私は、現地語であるドイツ語がしゃべれなかったのが少し悔しいと感じたので、次に住む国の言語は習得したいと思っています。今回の留学では、大学、大学の事務の方々、留学生科の方々、家族とたくさんの人に支えられました。多くの人たちのおかげで数えきれないほどの多くのことを学び、友人達にも恵まれました。心から感謝申し上げます。

お疲れ様でした